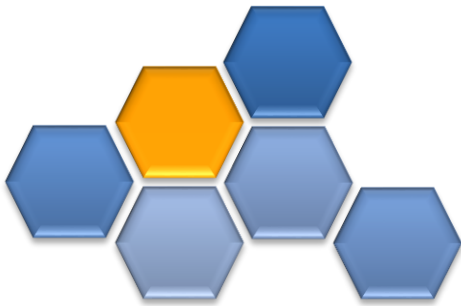


# 令和4年度 第2四半期運用状況 (退職等年金給付積立金)



# 1. 令和4年度第2四半期運用状況の概要

## 【退職等年金給付積立金の基本的な考え方】

- キャッシュバランス方式を採用していることを踏まえ、10年国債利回り等を指標として設定される基準利率を確保可能な国内債券や貸付金を中心に、長期的な観点から安全かつ効率的に運用を行います。

※キャッシュバランス方式…一定の基準(給与の一定割合など)により算定された掛金に、定められた指標(国債利回りなど)に基づく利子を付与して加入者ごとの勘定残高を算定し、その勘定残高に見合った年金または一時金の給付を行う給付設計方式です。

- 第2四半期末の運用資産額(簿価)は、3,255億円となりました。
- 第2四半期の実現収益率(期間率)は、プラス0.15%となり、実現収益額は、5億円となりました。

|            |    | 前年度   | 令和4年度 |       |       |       | 年度 |
|------------|----|-------|-------|-------|-------|-------|----|
|            |    |       | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |    |
| 期末資産残高【簿価】 | 億円 | 3,041 | 3,113 | 3,255 |       | 3,255 |    |
| 実現収益率      | %  | 0.74  | 0.19  | 0.15  |       | 0.34  |    |
| 実現収益額      | 億円 | 21    | 6     | 5     |       | 11    |    |

※ 年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的な観点で評価すべきものですが、積極的な情報公開の観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。

(注1) 実現収益率及び実現収益額は、当該期間中に委託手数料等が精算された場合には、これを控除しています。

(注2) 実現収益率は、各期間に係るものです。

## 2. 令和4年度第2四半期の運用環境①

【第2四半期 令和4年7月～令和4年9月の運用環境】

### ➤ 株式市場

国内株式は、米国株式市場の動きに左右される展開となりました。7月から8月半ばにかけては米国の金融引締めへの警戒感がやわらいだことや参院選での自民党勝利などを手掛かりに、日経平均株価は一時29,000円台を回復する局面もありました。しかし、8月下旬以降は米国株の大幅下落に連れて反落、円安や経済再開期待などから若干の反発はあったものの、期末にかけては米国株に連れて一段安となり、前期に続いて下落となりました。

外国株式は、米国の景気減速懸念から、金融引締めへの警戒感がやわらいだことで、米国株式は7月から8月半ばにかけて上昇し、NYダウは一時34,000ドル台を回復する局面もありました。しかし、8月下旬のパウエルFRB議長がジャクソンホールでの講演で金融引締めの継続に言及したことから、金融引締めへの警戒感が再燃し株価は急反落、さらに9月発表の米国消費者物価指数が予想を上回る上昇となったことから株価は一段安となり、前期に続いて下落となりました。

参考指標

### ➤ 債券市場(長期金利)

国内金利は、手掛かりとなる材料が乏しい中、米国金利に連れて低下し0.17%近辺を付ける局面もありましたが、その後米国金利に連れて上昇し、通期では小幅な上昇となりました。

米国では、金融引締めへの見方から、長期金利は上下に大きく変動しました。7月末にかけては長期金利は低下したものの、8月以降は上昇に転じ、通期では大幅な上昇となりました。

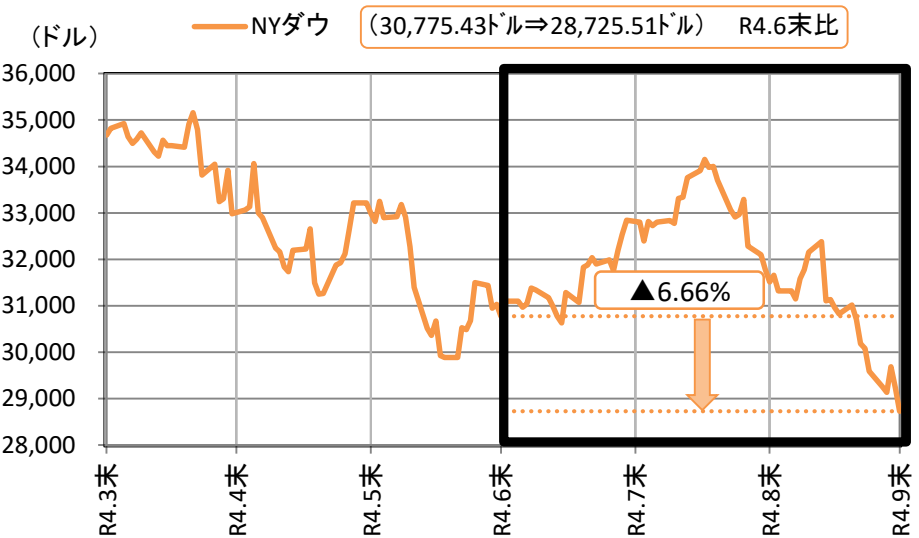
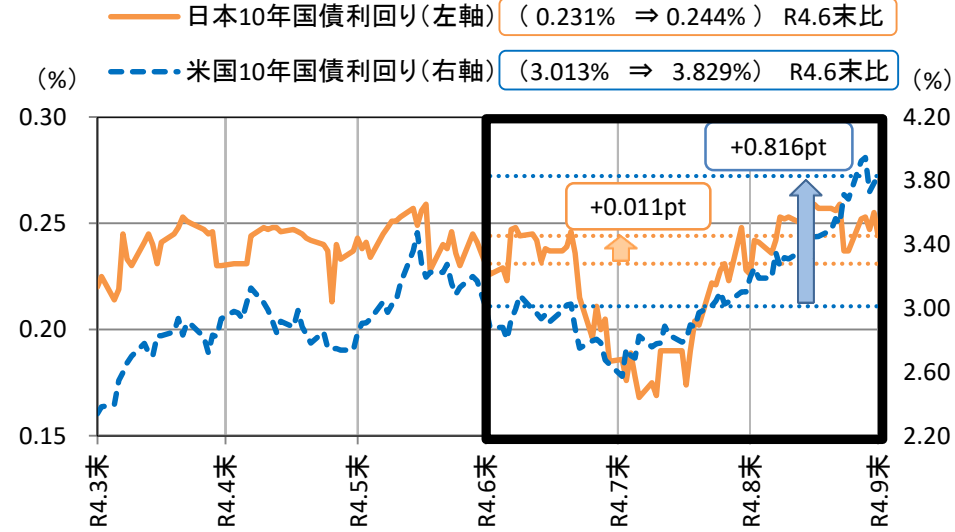
欧州でも、米国同様の動きで、長期金利は上昇しました。

### ➤ 為替

米ドル/円は、引続き日米金利差を手掛かりとした動きとなりました。8月頭にかけては米国金利低下に伴い円高となりましたが、以降は米国金利が上昇に転じたことから円安が進み、日銀の市場介入実施もあったものの、通期では大幅な円安となりました。ユーロ/円は、米ドル/円同様の動きでしたが、9月下旬以降はドル独歩高となり、若干の円高となりました。

|      |                 | R4年6月末    | R4年9月末    |
|------|-----------------|-----------|-----------|
| 国内債券 | 日本10年国債利回り (%)  | 0.23      | 0.24      |
| 国内株式 | 日経平均 (円)        | 26,393.04 | 25,937.21 |
| 外国債券 | 米国10年国債利回り (%)  | 3.01      | 3.83      |
|      | ドイツ10年国債利回り (%) | 1.34      | 2.11      |
| 外国株式 | NYダウ (ドル)       | 30,775.43 | 28,725.51 |
|      | DAX (Pt)        | 12,783.77 | 12,114.36 |
|      | 上海総合 (Pt)       | 3,398.62  | 3,024.39  |
| 為替   | ドル/円 (円)        | 135.72    | 144.74    |
|      | ユーロ/円 (円)       | 142.26    | 141.88    |

## 2. 令和4年度第2四半期の運用環境②



### 3. 収益率の状況

(単位: %)

| 区 分          | 前年度         | 令和4年度       |             |       |       | 年度          |
|--------------|-------------|-------------|-------------|-------|-------|-------------|
|              |             | 第1四半期       | 第2四半期       | 第3四半期 | 第4四半期 |             |
| <b>実現収益率</b> | <b>0.74</b> | <b>0.19</b> | <b>0.15</b> |       |       | <b>0.34</b> |
| 国内債券         | 0.75        | 0.19        | 0.15        |       |       | 0.34        |
| 国内株式         | 0.00        | 0.00        | 0.00        |       |       | 0.00        |
| 短期資産         | 0.00        | 0.00        | 0.00        |       |       | 0.00        |

(注1) 国内債券には、貸付金等を含みます。

(注2) 実現収益率は、当該期間中に委託手数料等が精算された場合には、これを控除しています。

(注3) 実現収益率は、各期間に係るものです。

## 4. 収益額の状況

(単位:億円)

| 区 分          | 前年度       | 令和4年度    |          |       |       | 年度        |
|--------------|-----------|----------|----------|-------|-------|-----------|
|              |           | 第1四半期    | 第2四半期    | 第3四半期 | 第4四半期 |           |
| <b>実現収益額</b> | <b>21</b> | <b>6</b> | <b>5</b> |       |       | <b>11</b> |
| 国内債券         | 21        | 6        | 5        |       |       | 11        |
| 国内株式         | 0         | 0        | 0        |       |       | 0         |
| 短期資産         | 0         | 0        | 0        |       |       | 0         |

(注1) 国内債券には、貸付金等を含みます。

(注2) 四捨五入の関係で、各数値の合算が合計値と一致しない場合があります。

(注3) 実現収益額は、当該期間中に委託手数料等が精算された場合には、これを控除しています。

(注4) 実現収益額は、各期間に係るものです。

## 5. 運用資産額(簿価)の状況

(単位:億円)

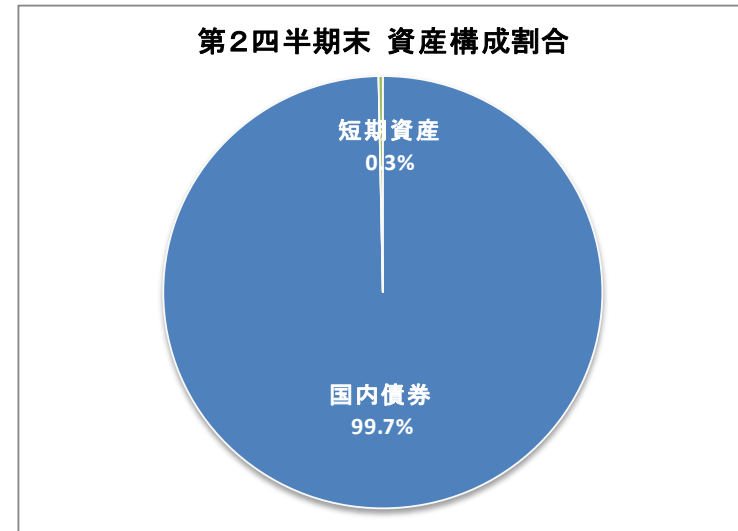
| 区 分        | 前年度末         | 令和4年度        |              |        |        |
|------------|--------------|--------------|--------------|--------|--------|
|            |              | 第1四半期末       | 第2四半期末       | 第3四半期末 | 第4四半期末 |
| 国内債券       | 3,004        | 3,105        | 3,245        |        |        |
| 国内株式       | 0            | 0            | 0            |        |        |
| 短期資産       | 36           | 9            | 10           |        |        |
| <b>合 計</b> | <b>3,041</b> | <b>3,113</b> | <b>3,255</b> |        |        |

(注1) 国内債券には、貸付金等を含みます。

(注2) 四捨五入の関係で、各数値の合算が合計値と一致しない場合があります。

## 6. 運用資産別の構成割合

| 区 分  | 資産構成割合<br>第2四半期末<br>(令和4年9月末) |
|------|-------------------------------|
| 国内債券 | 99.7%                         |
| 国内株式 | 0.0%                          |
| 短期資産 | 0.3%                          |
| 合 計  | 100.0%                        |



(注1) 国内債券には、貸付金等を含みます。

(注2) 基本ポートフォリオは、国内債券100%(−10%)、国内株式0%(+10%)です。

(注3) 四捨五入の関係で、各数値の合算が100%にならない場合があります。



## 7. 用語説明

- 総合収益額

時価に基づく収益額を把握するために、利金・配当金や売買損益などの実現損益と未収収益の増減に、評価損益の増減を加えたものです。

$$\text{(計算式) 総合収益額} \\ \text{実現損益} + (\text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益}) + (\text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益})$$

- 修正総合収益率

運用成果の評価方法の一つで、簿価ベースの平均残高利回りに時価の概念を導入した収益率です。

分子は総合収益額を用い、分母は時価総額の平均残高に近似させるため、簿価の平均残高に前期末の未収収益と評価損益を加えています。期間中の資金追加・回収が収益率に影響を与えるという特徴があります。

$$\text{(計算式) 修正総合収益率} \\ \frac{\text{実現損益} + (\text{当期末未収収益} - \text{前期末未収収益}) + (\text{当期末評価損益} - \text{前期末評価損益})}{\text{期中元本(簿価)平残} + \text{前期末未収収益} + \text{前期末評価損益}}$$

- FRB

連邦準備制度理事会(Federal Reserve Board)の略称であり、米国の中央銀行制度の最高意思決定機関です。

7名の理事で構成され、全米12の地区の連邦準備銀行を監督し、FOMC※において金融政策決定を主導します。

※ FOMC(連邦公開市場委員会 Federal Open Market Committee)・・・FRB理事7名と連邦準備銀行の総裁から選ばれた5名を合わせた12名の委員によって年8回定期開催され、金融政策としての公開市場操作方針等を決定します。

- ECB

欧州中央銀行(European Central Bank)の略称であり、EU加盟国のうち欧州統一通貨「ユーロ」を採用している国々(ユーロ圏)の金融政策を担う中央銀行です。

ECB役員理事会の6名とユーロ圏各国の中央銀行総裁で構成される「政策理事会」が月2回開かれ、公開市場操作等の金融政策の決定を行います。

- 金融引締め政策

中央銀行が景気の過熱やインフレを抑制するために実施する金融政策。政策金利の引き上げや預金準備率の引き上げにより短期金融市場の通貨供給量を減少させ、金利上昇を促し消費や投資などの経済活動の抑制を図ります。